

ISO/IEC/JIS Plastics

事務局便り 2012年4月

IEC/TC89 (耐火性試験) メルボルン会議

IEC/TC89の国際会議が2011年10月23日～27日、オーストラリアのメルボルンで開催された。参加国は、米国、英国、ドイツ、イタリア等16か国で、総勢31名の参加があった。日本からは、IEC/TC89国内委員会の春原委員(ポリプラスチック(株))、林委員((社)電線総合技術センター)、香月委員((独)製品評価技術基盤機構)、井上委員(帝人化成(株))および乾(乾安全規格事務所)の5名が参加した。

TC89の会議が開かれたメルボルンは、オーストラリアで2番目に大きい都市で、1927年まで臨時首都であった街である。会議は、WG11(火災放出物)、WG12(着火と燃焼の広がり)、AG13(TC89戦略)、PT 60695-1-13(製品TCに共通の耐火性クラス分けガイダンス)およびTC89全体会議が行われた。以下、各WGのトピックスをプラスチックに関係のあるテーマを中心に述べる。

1. WG11 会議 (燃焼生成物、ガイダンス、用語及び火災安全技術)

(1) IEC 60695-4 (耐火性試験用語)

CDV文書に対するコメントを確認し、特に異議なく承認された。

(2) IEC 60695-6-30 (煙による光の不透過度測定-小規模静的試験方法-試験装置の記述), 6-30 (小規模静的試験方法-材料)

NBSチャンバを使う試験方法で英国から反対があったが、賛成多数でFDISへ移行することになった。

2. WG12 会議 (着火と燃焼の広がり)

(1) IEC 60695-2-12 (材料のグローワイヤ燃焼性試験方法),

日本提案により、各温度で3回の試験を実施するというFDISが承認されたが、改訂されていないためAmendmentを出すよう要求した。

(2) IEC 60695-2-13 (材料のグローワイヤ着火性試験方法)

2-12と同様、記述ミス进行正すCorrigendumを出すよう要求した。

(3) IEC 60695-2-20 (ホットワイヤ着火性試験方法)

プロジェクトチームで電源の直流化、ワイヤの統一、銅ブロックによる昇温速度の確認、試験片枚数の増加、判定基準の改善などを経て、試験結果ばらつきが大幅に改善されたが、同一サンプルで全く(120秒以上)着火しない試験片と短時間で容易に着火する試験片が存在するため、この試験法自体信頼性に乏しいという意見が複数の委員より挙げられた。この問題が解決すればCDVに進めるが、解決できなければ審議を停止することに合意した。

(4) IEC 60695-10-2 (ボールプレッシャー試験方法)

日本で行った輪郭形状測定結果に基づき、へこみ径の開始点を断面図で示す方法は不適切であることが分かり、天面から観察することにして、観察図は実際の写真を載せることになった。

(5) IEC 60695-11-2 (1 kW 試験炎および指針)

試験炎の高さで規定すると、銅ブロックによる確認でばらつきが大きいことが分かり、従来どおり、空気流量・ガス流量・火炎高さを規定するべきとの意見になり、再度 CDV 文書を準備することになった。

(6) IEC TS 60695-11-11 (火炎からの熱流束による着火性試験) : 本規格は日本提案。

ラウンドロビンテストの内容確認を行った。

(7) IEC/CD 60695-11-20 (500W 試験炎による燃焼試験)

日本提案 (改良した 5 秒間バーナ固定法) について行ったラウンドロビンテスト結果を報告した。結果の一致は良くなったが、従来法よりも厳しい判定になることで懸念が示された。

CDV に記載されている 5 秒間バーナ固定法ではばらつきが押さえられないので、改良した追尾法と改良した固定法の比較を行ってから再度 CDV 文書を準備することになった。

3. その他

PT 60695-1-13 で耐火性クラス分けガイダンス作成を促進するため、作業グループを 3 つ (着火、火炎伝播、熱拡散) に分け、熱拡散のリーダーを吉田委員長が務めることになった。

次回の会議は 2012 年 5 月 8 日～10 日に、カナダのオタワで開催される予定である。

報告：日本プラスチック工業連盟
電気材料安全・規格委員会派遣
乾 泰夫 (乾安全規格事務所)